

# 防災情報伝達システム整備工事 仕様書

鳴沢村

# 目次

1. 総則	1
1.1. 本仕様書の適用範囲	1
1.2. 本工事の趣旨・目的	1
1.3. 整備箇所	1
1.4. 機器一覧	2
1.5. 工事の概要	4
1.6. 適用法令	4
1.7. 契約の範囲	5
1.8. 提出書類	5
1.9. 工事期間	6
1.10. 仕様書の疑義	6
1.11. 変更内容	6
1.12. 検査	6
1.13. 検収	6
1.14. 技術指導	6
1.15. 保証期間	7
1.16. 特許権の使用責任	7
1.17. 安全管理	7
1.18. その他	7
2. 一般事項	7
2.1. 機器の原則	7
2.2. 環境条件	8
2.3. 使用部材の条件	8
2.4. その他	8
3. システムの構成	9
3.1. 概要	9
4. 防災情報ポータルサービス	12
4.1. 環境要件	12
4.2. 機能要件	13
6. IP通信網を用いた情報伝達・収集システム	14
6.1. 管理・配信システム	14
6.1.1. 環境要件・機器要件	14
6.1.2. 機能要件	15
6.2. @InfoCanal 専用户別受信機	17
6.2.1. 環境要件・機器要件	17
6.2.2. 機能要件	17
6.3. @InfoCanal 専用屋外受信機	19

6.3.1. 環境要件.....	19
6.3.2. 機器要件・機能要件.....	19
6.4. @InfoCanal スマートフォンアプリ.....	20
6.5.1. 環境要件・機器要件.....	20
6.5.2. 機能要件.....	20

# 1. 総則

## 1.1. 本仕様書の適用範囲

本仕様書は、鳴沢村（以下、「本村」という。）が発注する防災情報伝達システム整備工事（以下、「本工事」という。）に適用するとともに、本工事を受託する者（以下、「受託者」という。）として必要な事項を定めたものである。

## 1.2. 本工事の趣旨・目的

現在、本村では複数の配信メディアをそれぞれ個別運用しているため、職員の配信作業における負担が大きい。また、住民に対して統一した内容の情報伝達が行えていないという課題を抱えている。

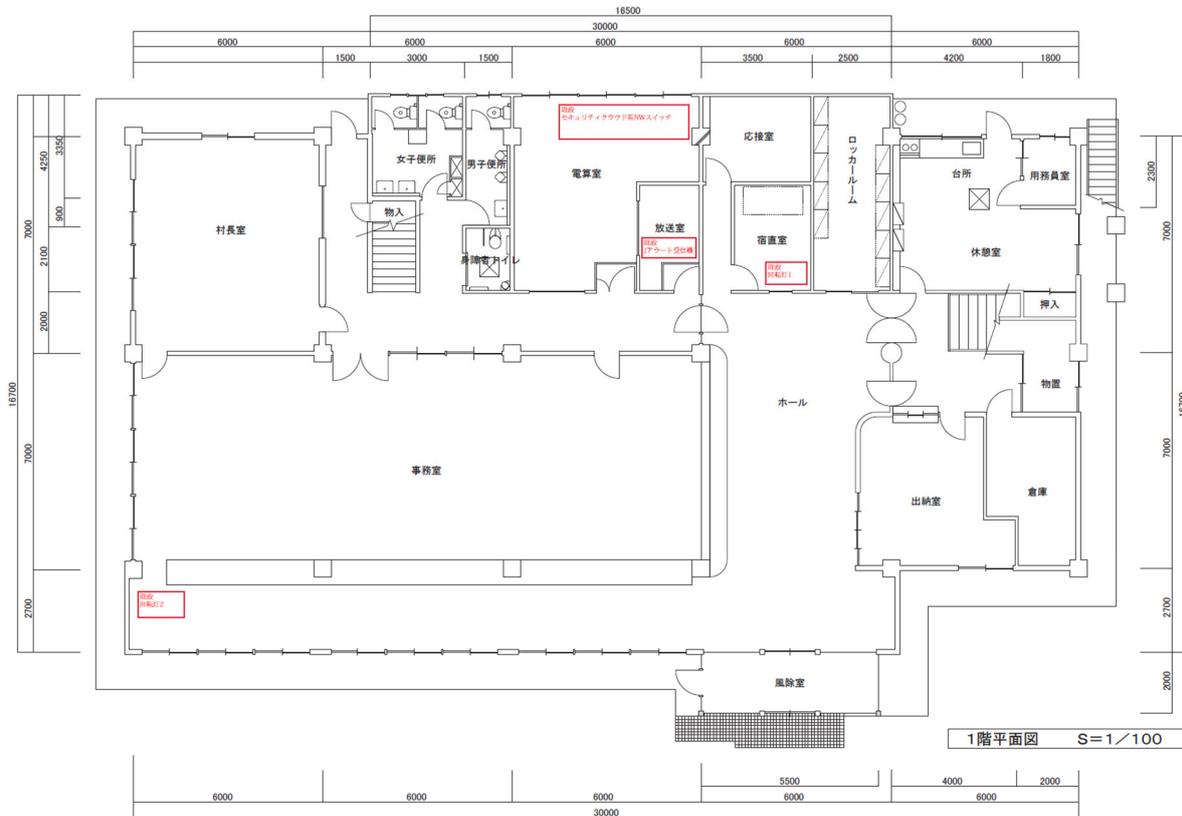
本工事では、新規の開発は行わず、「@InfoCanal」と既に導入している「すぐメール Plus+」を組合せて利用することで整備費、維持費を抑えながら課題解決することを前提としている。これらのサービス群（システム群）を統一的に運用することで災害時等における緊急情報の情報伝達手段の確保、および簡易な操作で情報を確実・迅速に多種多様なメディアに対して一斉配信できる「配信プラットフォーム」を確立する。

## 1.3. 整備箇所

項番	設置場所	設備	数量
①	役場内・役場敷地内	・新型 J-ALERT 受信機 JARS-3000	1 式
		・J-ALERT 保守用・@InoCanal 配信用ノート PC	2 式
		・UPS BN75T	1 式
		・@InfoCanal 専用屋外受信機	1 台
		・@InfoCanal 専用戸別受信機	1 台
		※モニター試聴用	
②	前丸尾局	@InfoCanal 専用屋外受信機	1 式
③	山道局	@InfoCanal 専用屋外受信機	1 式
④	大棟ノ木局	@InfoCanal 専用屋外受信機	1 式
⑤	犬ノ子草里局	@InfoCanal 専用屋外受信機	1 式
⑥	宮前道下局	@InfoCanal 専用屋外受信機	1 式
⑦	丸紅管理事務所局	@InfoCanal 専用屋外受信機	1 式
⑧	村内外各所	・@InfoCanal 専用戸別受信機	599 台
		・スマートフォンアプリ	1000 式

## 1.4. 本庁舎内設備

本工事に関係する本庁舎内の既設設備位置は以下の通りとなる。 これらを考慮し3章に記載した事項を行うこと。



## 1.5. 機器一覧

本事業で整備するシステムの構成・数量は、以下の通りとする。また以下取り付けに付帯するケーブル等の材料も含むこと。

- (1) IP 通信網を活用した情報伝達・収集システム@InfoCanal 構築 : 1式

受信手段:バックナンバーサイト、スマートフォンアプリ 1000 式

入力先:すぐメール Plus+, WEB ブラウザでの手動操作

出力先:すぐメール Plus+, LINE、Yahoo!防災速報

- (2) @InfoCanal 専用户別受信機 : 600 台

・無線方式: 対応キャリア網 docomo (LTE/3G)、au (LTE のみ)

LTE 通信 対応周波数帯域 B1、B3、B18、B19

3G 通信 対応周波数帯域 B1、B19

緊急速報 (ETWS/CBS) 情報受信

・GPS 測位: GPS (Standalone)

・スピーカー: 85db SPL (機器正面 50cm 位置)

・外部出力:  $\Phi 35\text{mm}$  4 極ミニジャック

(先端より、モノラル音声、モノラル音声、GND、外部制御信号)

- ・電源：専用 AC アダプタ (入力 AC100V50/60Hz 出力 DC12V1A)
- ・電池 (アルカリ単三電池 × 4 本約 36 時間駆動)
- ・外形寸法：200mm(W) × 106mm(H) × 59mm(D)
- ・重量：約 435g (電池含まず)
- ・使用条件：温度 0~40°C (保管温度-10~60°C) 湿度~80% 結露しない事
- ・音声合成：話者は女性。自治体毎の辞書対応
- ・付加機能：ランプと音声による電池消耗通知、遠隔ファームアップ機能 (FW、設定パラメータ、チャイム、楽曲、音声合成辞書)、最大 6 件の履歴再生

(3) @InfoCanal 専用屋外受信機 : 7 台

- ・無線方式：対応キャリア網 docomo(LTE/3G)、au(LTEのみ)  
LTE 通信 対応周波数帯域 B1、B3、B18、B19  
3G 通信 対応周波数帯域 B1、B19  
外付けアンテナ 2 本 (寸法 105(W) × 256(H) × 197(D)mm)
- ・電界強度確認用 LED × 3
- ・電力増幅装置 (アンプ) 120W × 1
- ・モニタースピーカー内蔵
- ・自動復帰ブレーカー × 1 SPD × 1
- ・電源：通常時 AC100V、停電時 DC24V
- ・自局放送マイク × 1
- ・消費電流：AC100V 最大 1A
- ・温度範囲：-10°C ~ +50°C (受信装置)
- ・湿度条件：40°C 95%RH 以下 (結露しないこと)
- ・音声合成：話者女性・自治体毎の辞書対応

(4) 防災情報ポータルサービスビルすぐメール Plus+機能拡張 : 1 式

入力先:@InfoCanal 気象業務支援センター(特別警報・警報・注意報・火山情報)、J-ALERT、消防指令台メール

出力先:@InfoCanal、架電(住民世帯向け)

(5) 新型 J-ALERT 受信機 JARS-3000(5 年センドバック保守付き筐体とすること) : 1 式

(6) UPS BN75T : 1 式

(7) J-ALERT 保守用・@InoCanal 配信用ノート PC : 2 台

- ・CPU:Corei5 以上
- ・メモリ:4GB 以上
- ・HDD:128GB 以上
- ・画面サイズ:13インチ以上
- ・Office:無
- ・インターフェース:LAN 有

## 1.6. 工事の概要

本工事では、①IP 通信網を活用した情報伝達・収集システム@InfoCanal の導入、②防災情報ポータルサービルすぐメール Plus+の機能拡張を実施する。これら①②を組合せ、配信システム群を整備する。受信設備は、①@InfoCanal スマートフォンアプリ②バックナンバーサイト③@InfoCanal 専用戸別受信機④@InfoCanal 専用屋外受信機とする。携帯4社が提供するエリアメール・緊急速報メールにも一括で配信が可能な構成とする。外部連携先メディアは構成図の通りとする。

- (1) @InfoCanal を導入・すぐメール Plus+の機能拡張を行い、防災情報伝達システム基盤の利用環境を構築すること。
- (2) 新型 J-ALERT 受信機を調達・整備すること。
- (3) 既設 J-ALERT 受信機を撤去すること。
- (4) 新型 J-ALERT 受信機・回転灯にLAN配線を行うこと。
- (5) 新型 J-ALERT 受信機と連携すること。
- (6) 既設屋外拡声子局の既設無線装置、アンテナを撤去すること。
- (7) 既設屋外拡声子局柱に屋外受信機を据え付けすること。
- (8) 既設スピーカーと屋外受信機との配線及び配管施工をすること。
- (9) 既設引込から各機器への電源供給の接続を行うこと。
- (10) J-ALERT 連携を含めた配信試験を行うこと。
- (11) 戸別受信機を調達すること。
- (12) スマートフォンアプリを提供すること。
- (13) バックナンバーサイトを提供すること。
- (14) 外部連携メディア(Yahoo!防災速報・LINE)に連携すること。
- (15) 2026年4月1日からの維持・保守・現地点検を行う前提でシステム構築すること。

維持・保守・現地点検はそれぞれ以下を想定している。

・維持・保守：@InfoCanal、すぐメール Plus+機能拡張部分

・現地点検(年1回)：@InfoCanal 専用屋外受信機（スピーカーから音が出るかの確認）

J-ALERT 受信機専用 UPS のバッテリー交換ランプの点灯状況確認

## 1.7. 適用法令

本工事を設計・製作・施工する受注者は、本仕様書に定めるもののほか、次に掲げる法令等に準拠するものとする。

- (1) 法規等
  - 1) 電波法及び同法関係規則及び告示
  - 2) 建築基準法及び同法関係規則
  - 3) 電気設備技術基準
  - 4) 電気設備工事標準仕様書
  - 5) 鳴沢村条例等
  - 6) その他関係法令等
- (2) 規格

- 1) 日本産業規格 (JIS)
- 2) 電気学会電気規格調査会標準規格 (JEC)
- 3) 日本標準規格 (JES)
- 4) 日本電機工業会標準規格 (JEM)
- 5) 日本電子機械工業会規格 (EIAJ)
- 6) 電子情報技術産業協会規格 (JEITA)

## 1.8. 契約の範囲

契約の範囲は、本工事の設計・製作・運搬・据付並びに調整・試験・完了までに必要な機器及び関係官公庁等への諸手続きを含む検収に至るまでの一切とする。

また、次に掲げる事項を含め、本工事の完成までに必要な諸手続き及び検収に至るまでの一切とし、これらに要する費用は、全て請負金額に含むものとする。

- (1) 本仕様書に基づく防災情報伝達システムの設計・製作
- (2) 製品の運搬・据付け・試験調整
- (3) 戸別受信機・屋外受信機で必要となる SIM カードの手配及び契約事務手続き

## 1.9. 提出書類

(1) 受注者は、契約締結後、直ちに本仕様書に基づいて詳細な打合せを行い、次の書類を発注者に提出しなければならない。

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| 1) 工事着手届             | 2 部 |
| 2) 現場代理人等通知書         | 2 部 |
| 3) 内訳書及び工程表          | 2 部 |
| 4) 施工計画書             | 2 部 |
| 5) 施工体制台帳            | 2 部 |
| 6) 承認図               | 2 部 |
| 7) 機器の仕様書            | 2 部 |
| 8) システム構成図           | 2 部 |
| 9) 作業体制図             | 2 部 |
| 10) その他発注者が必要とする資料など |     |

(2) 受注者は、本工事完了後、速やかに次の書類かつ電子媒体 (CD-R 等) を発注者に提出するものとする。

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1) 工事完成届              | 2 部 |
| 2) 取扱説明書              | 2 部 |
| 3) 試験成績書              | 2 部 |
| 4) 完成図書               | 2 部 |
| 5) @InfoCanal ライセンス証書 | 1 部 |
| 6) 工事目的物引渡所           | 2 部 |

7) その他発注者が指定するもの

指定部数

## 1.10. 工事期間

契約の締結の日から令和8年3月31日までとする。

## 1.11. 仕様書の疑義

受注者は、本仕様書記載内容のとおり本工事を施工するものとする。ただし、仕様書に疑義が生じた場合は直ちに発注者へ連絡し、発注者、受注者が協議のうえ、決定するものとする。

## 1.12. 変更内容

本仕様書の内容については、特段の事由が無い限り変更は認めないが、発注者又は受注者のやむを得ない都合により内容に変更が生じた場合は、発注者、受注者が協議のうえ、決定するものとする。

## 1.13. 検査

検査の内容・方法等については、事前に発注者と打合せを行うものとし、検査に要する測定機器及び人員等については、受注者において準備するものとする。

## 1.14. 検収

受注者は、本工事完了後に完了届を発注者に提出し、発注者の行う検査の合格をもって検収とする。

## 1.15. 技術指導

受注者は、本工事の運用・保守に必要な説明書を作成のうえ、発注者に対し十分な技術指導と技術・運用訓練を行うものとする。

- (1) システム管理者、配信担当者に対する操作講習会を開催すること。この場合、実機を用いて、実例を示した分かりやすい講習会とすること。
- (2) 操作講習会の実施方法・内容等については、受注者が提案すること。
- (3) 操作講習会で利用する研修マニュアルは受注者で作成し、必要となる部数のほか、発注者が指示する部数の予備も準備すること。
- (4) 操作講習会を受講する職員数については、契約締結後、発注者、受注者が協議のうえ決定するものとする。

## 1.16. 保証期間

本工事で設置した機器の保証期間は、機器の引渡しの日(検査に合格した日)より1年とし、受注者の機器製作及び設置時に起因と判断される障害が発生した場合、速やかに無償修復又は交換を行うものとする。

## 1.17. 特許権の使用責任

受注者は本工事の施工にあたり、特許・実用新案その他第三者に対する責任を全て負うものとする。

ただし、発注者がその履行方法等を指定した場合において、仕様書に特許権等の対象たる旨の明示がなく、かつ、受注者がその存在を知らなかったときは、この限りではない。

## 1.18. 安全管理

受注者は、本工事の施工にあたり「労働安全衛生法」その他関係法規に従い、常に安全に必要な措置を講じ、労働災害の防止に努めるものとする。

## 1.19. その他

既存の設備・ネットワーク環境など現地の確認を必要とする場合は、関係各所と調整のうえ行うものとする。

- (1) 事前調査を十分に行い、監督職員と施工方法を確認後施工すること。
- (2) 作業においては、設備の稼働状況を十分に把握し、設備の運用に支障をきたすことのないように監督職員と協議すること。また、システムの停止についても監督職員と協議して行うこと。
- (3) 発注者が整備している防災情報を提供する各メディアとの連携については、受注者が既設業者と十分協議して行うものとする。
- (4) 各連携先との接続方法については、受注者にて主体的に協議し実施するものとする。

## 2. 一般事項

### 2.1. 機器の原則

装置は次に挙げる事項を十分に満足するものとなるように配慮すること。

- (1) 運用に際して、最適の機能を有するものであること。
- (2) 堅牢にて長時間の使用に十分耐え得るものであり、維持管理が経済的に行えるものであること。
- (3) 清掃、点検、調整及び修繕が容易に行える構成であり、かつ、これらに際して危険のない構造のものであること。

## 2.2. 環境条件

本システムを構成する機器において、屋外放送設備は周囲温度 $-10^{\circ}\text{C}\sim 40^{\circ}\text{C}$ にて性能規格を満足するものであり、屋内に設置する設備は、周囲温度 $10^{\circ}\text{C}\sim 30^{\circ}\text{C}$ とする。

## 2.3. 使用部材の条件

各装置に使用する部品・材料は全て良品、新品を使用し、日本産業規格(JIS)同等又は同等以上の性能を有するものであること。

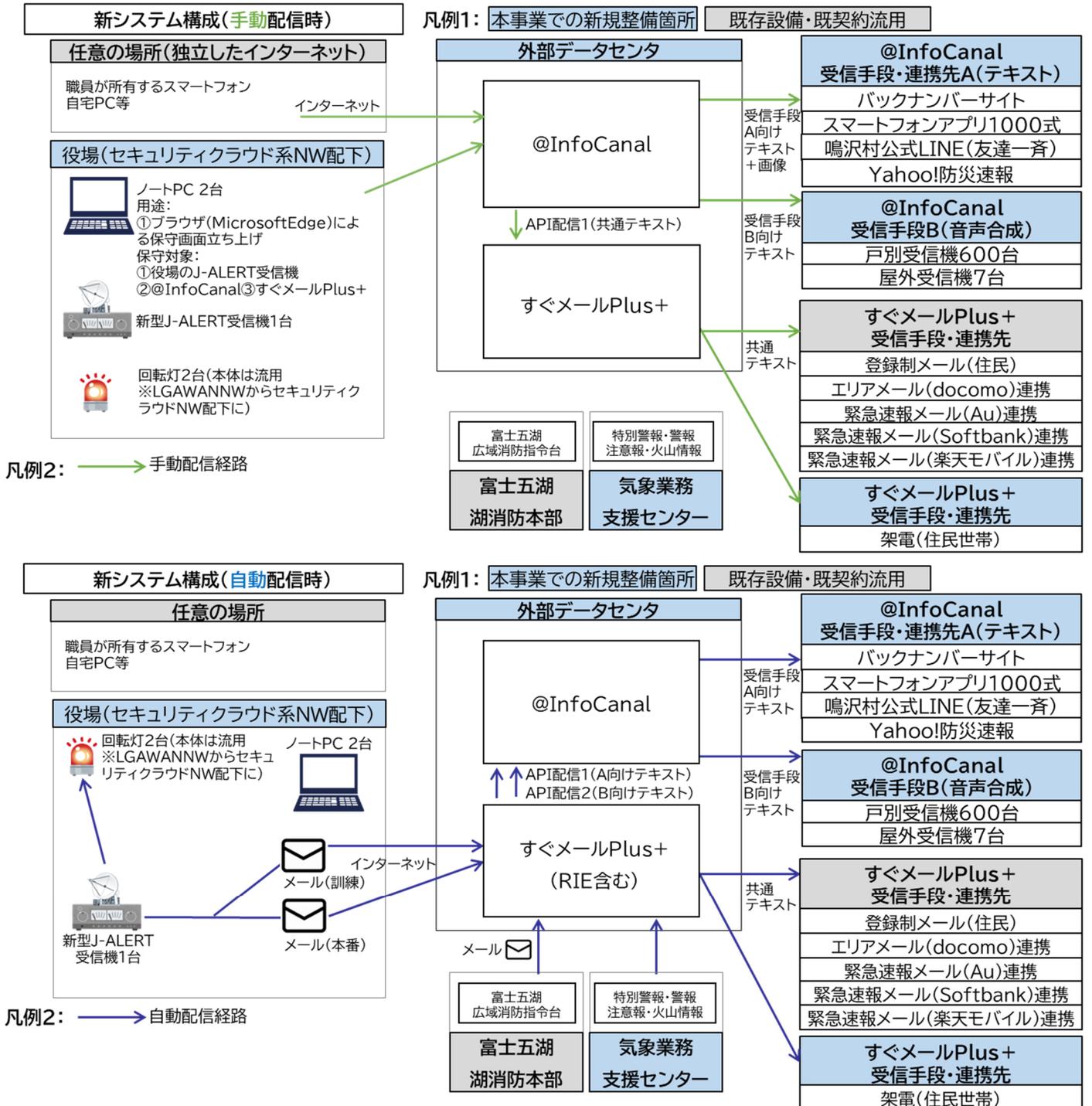
## 2.4. その他

- (1) 本工事の施工にあたり、構造物及び機器等に損傷を与えた場合は、速やかに発注者と協議のうえ、受注者の責任において修復するものとする。
- (2) 作業完了に際しては、作業現場の後片付け及び清掃を行うものとする。

### 3. システムの構成

#### 3.1. 概要

本システムは外部データセンタにて展開される以下 2 つのシステム群、及びそれらのシステムを操作・配信するため周辺機器と J-ALERT 受信機(新型)から構成される。情報伝達経路(手動配信時・自動配信時)についてはそれぞれ以下の構成図を想定している。伝送路に IP 網、連携手段にメール・API 等を用いる。情報伝達速度についてはベストエフォートとする。本章では 2 システムの概要と、周辺機器について記載する。



(1) 防災情報ポータルサービス\_ すぐメール Plus+ (詳細については 4 章を参照)

導入済み・利用中のすぐメール Plus+ の機能拡張を行い、すぐメール Plus+ の入力元から入力された情報をすぐメール Plus+\_受信手段・出力先に配信する役割を担う。すぐメール Plus+ として提供する受信手段、入力・出力の構成は以下とし、既に導入済みの項目は【既設】と表記する。また、「すぐ参集」は「すぐメール Plus+」とは別のサービス・システムであり相互連動しない。当該「すぐ参集」の機能・運用については変更しないこと。

**【すぐメール Plus+\_受信手段】**

- 登録制メール(住民向け) 【既設】

**【すぐメール Plus+\_入力元】**

- 新型 J-ALERT 受信機
- 気象業務支援センター(特別警報・警報・注意報・火山のみ)
- @InfoCanal (API)
- 富士五湖消防本部からの火災情報メール
- すぐメール Plus+ウェブブラウザからの手動配信操作【既設】

**【すぐメール Plus+\_出力先】**

- エリアメール(docomo) 【既設】
- 緊急速報メール(au、Softbank、楽天モバイル) 【既設】
- @InfoCanal (API)
- 架電(住民世帯向け)

※参考 「すぐ参集」で導入済み、「すぐ参集」として利用できる機能

受信手段：職員参集メール

入力元：J-ALERT・消防指令台・気象業務支援センター(震度・地震情報)

(2) IP 通信網を用いた情報伝達・収集サービス\_@InfoCanal (詳細については 5 章を参照)

IP 通信網を用いた情報伝達・収集サービス@InfoCanal

@InfoCanal\_入力元から入力された情報を@InfoCanal\_受信手段・出力先に配信する役割を担う。@InfoCanal として提供する受信手段、入力・出力の構成は以下とする。

**【@InfoCanal\_受信手段】**

- バックナンバーサイト
- スマートフォンアプリ 1000 式
- @InfoCanal 専用户別受信機 600 台
- @InfoCanal 専用屋外受信機 7 台

### 【@InfoCanal\_入力元】

- すぐメール Plus+ (API)
- @InfoCanal ウェブブラウザからの手動配信操作

### 【@InfoCanal\_出力先】

- 鳴沢村公式 LINE (友達一斉)
- Yahoo!防災速報
- すぐメール Plus+ (API)

### (3) 周辺設備・J-ALERT 受信機(新型)

周辺設備・J-ALERT 受信機(新型)については、以下の要件を満たすこと。

- ① 新型 J-ALERT は放送室内に据え付けること。セキュリティクラウド系 NW スイッチの特定のポートに LAN で接続すること。当該ポートについては発注者が指定・指示するのでその通り行うこと。仮に電算室にあるスイッチのポートを指定した場合はそこから LAN 配線を始めること。
- ② 新型 J-ALERT 据え付けの際は既設のラック等を流用すること。
- ③ 既存の J-ALERT 用衛星アンテナ・同軸ケーブルは流用し、新型 J-ALERT 受信機に接続すること。入れ替え期間中は J-ALERT 受信機アンテナから既存 LGWAN 系旧 J-ALERT 受信機(既設)に接続している既存同軸ケーブルを CS アンテナ 2 分配器(EG-2D3BK)・CS ラインブースターC27S(B)を組合せ 新型 J-ALERT 受信機(セキュリティクラウド NW 系)に並列で接続すること。同報系設備入れ替え後は、J-ALERT 用アンテナからの既存同軸ケーブルを分岐せずに新型 J-ALERT 受信機に接続すること。
- ④ 周辺設備(ノート PC) 1 台は放送室内で新型 J-ALERT 管理用として利用する。当該端末はセキュリティクラウド系 NW スイッチの特定のポートに LAN で接続すること。当該ポートについては発注者が指定・指示するのでその通り行うこと。仮に電算室にあるスイッチのポートを指定した場合はそこから LAN 配線を始めること。
- ⑤ 周辺設備(ノート PC) 1 台は事務室総務課付近で@InfoCanal 配信用として利用する。当該端末はセキュリティクラウド系 NW スイッチの特定のポートに LAN で接続すること。当該ポートについては発注者が指定・指示するのでその通り行うこと。仮に電算室にあるスイッチのポートを指定した場合はそこから LAN 配線を始めること。
- ⑥ 既存の宿直室内の回転灯を流用し、セキュリティクラウド系 NW スイッチの特定のポートに LAN で接続し、新型 J-ALERT 受信機と連動すること。仮に電算室にあるスイッチのポートを指定した場合はそこから LAN 配線を始めること。
- ⑦ 既設の事務室総務課内の回転灯を流用し、セキュリティクラウド系 NW スイッチの特定のポートに LAN で接続し、新型 J-ALERT 受信機と連動すること。仮に電算室にあるスイッチのポートを指定した場合はそこから LAN 配線を始めること。
- ⑧ 新型 J-ALERT 導入に伴う申請、設置前の基本設定・メール IF 設定・動作ルール設定・回転灯 IF 設定を行うこと。動作ルール設定は既設 J-ALERT 設定を鑑みて協議して行うこと。メール IF 設定・回転灯 IF 設定に入力するポート番号は発注者が指定

したものにする。当該メール IF に設定するメールアカウント情報は発注者が用意し共有したものを利用すること。

- ⑨ 周辺設備(ノート PC) 2 台のそれぞれのウェブブラウザで新型 J-ALERT 受信機管理画面・すぐメール Plus+管理画面・@InfoCanal 管理画面のブックマークを作成し、アクセスできるかテストすること。当該周辺設備 がウェブブラウザでそれらの画面にアクセスするために必要なセキュリティクラウド系 NW の設定変更は発注者が行う。
- ⑩ 新型 J-ALERT 受信機は衛星・インターネット(鳴沢村セキュリティクラウド系 NW)で冗長化すること。当該新型 J-ALERT 受信機がセキュリティクラウド系 NW を介してすぐメール Plus+に情報連携メール送信するためのセキュリティクラウド系 NW 側の設定変更は発注者が行う。
- ⑪ 新型 J-ALERT 受信機は UPS BN75T とシリアルケーブルで接続させること。UPS BN75T は新型 J-ALERT 受信機の給電のみに利用すること。
- ⑫ 以下ア～エの切り替え・平行運用案を参考に発注者と協議し決定すること。  
ア:発注者がセキュリティクラウド NW の設定変更・調整を完了させる

イ:LGWAN 系旧 J-ALERT 受信機(既設)は触らずそのままとし、インターネット系(セキュリティクラウド NW 系)新型 J-ALERT 受信機を並列する。

※既存 J-ALERT 受信機アンテナからの同軸ケーブルは分岐して並列で新・旧 J-ALERT 受信機に接続する

ウ:新型 J-ALERT 受信機で J-ALERT 連携(すぐメール Plus+→@InfoCanal)が実装されてから@InfoCanal 専用屋外受信機・@InfoCanal 専用戸別受信機に切り替える。

※既存 LGWAN 系旧 J-ALERT 受信機(既設)のすぐ参集設定(各動作ルールのは、「ウ」のタイミングで削除し・同様の設定を新型 J-ALERT で行う。

※「ウ」の切り替え期間中は既存同報系の操作・@InfoCanal の操作両方を行う

エ:既存同報系設備(屋外受信機・戸別受信機)が全て@InfoCanal 系に切り替わったタイミングで、LGWAN 系旧 J-ALERT 受信機(既設)の電源を落とす。

※既存 J-ALERT 受信機アンテナからの同軸ケーブルを直接新型 J-ALERT 受信機に接続する。

## 4. 防災情報ポータルサービス

【バイザー(株)製「すぐメール Plus+」(すぐメールプラスプラス)】

### 4.1. 環境要件

- (1) 庁舎被災時に備え、庁舎設置以外のインターネット網に接続された任意の PC(Windows OS 10、11 の全バージョン)及びスマートフォン等の端末からでも配信操作が可能な状態であること。
- (2) 庁舎内からネットワーク回線を通じて、本システムにアクセス可能であること。

- (3) 当システムへは、固有のアプリ及びプラグイン等に依存せず、標準的なウェブブラウザを用いてアクセスできること。
- (4) データベースのデータは適宜バックアップを行うこと。また、バックアップデータは複数拠点のデータセンターに保管すること。
- (5) システムについて、必要なセキュリティ対策（情報漏洩、不正アクセス 等）を講じること。また、端末との通信経路が、SSL/TLS 等により暗号化されていること。

## 4.2. 機能要件

### (1) 気象連携入力機能

- ① 山梨県鳴沢村に関する気象情報（特別警報・警報・注意報・火山情報）を、予め定めた出力先に配信することができる。また、その配信の際は@InfoCana(テキスト系)・@InfoCanal(音声合成系テキスト)・すぐメールPlus+（登録制メール）それぞれに件名・本文を設定することができる。

### (2) J-ALERT 受信機(新型)入力連携機能

- ① 山梨県鳴沢村の新型J-ALERT受信機の動作ルール(メールIF)向けに入力連携用メールアドレスを発行できる。
- ② J-ALERT受信機(新型)の動作ルール(メールIF)からの動作ルール情報を入力した際は、予め定めた出力先に配信することができる。また、その配信の際は@InfoCana(テキスト系)・@InfoCanal(音声合成系テキスト)・すぐメールPlus+（登録制メール）・すぐメールPlus+(架電にともなう音声合成系テキスト)それぞれに件名・本文を設定することができる。
- ③ J-ALERT受信機(新型)の動作ルール(メールIF)に設定を行う種別は国民保護情報・地震情報・緊急地震速報・気象情報（指定河川洪水情報・土砂災害警戒情報・竜巻注意情報・記録的短時間大雨情報）を想定している。
- ④ 上記設定を想定している種別(国民保護情報の即時音声合成情報・事前音声書き換え情報)についてはすぐメールPlus+のRIE側で「対象地域：」に関する文章をカットしながら可変部分を採用すること。(可変部分例：①これは、Jアラートのテストです。②ミサイル発射。ミサイル発射。北朝鮮からミサイルが発射されたものとみられます。建物の中、又は地下に避難して下さい。③ミサイル通過。ミサイル通過。先程のミサイルは、7時48分頃、太平洋へ通過したものとみられます。不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡して下さい。
- ⑤ J-ALERT訓練（訓練用動作ルール①国民保護情報の即時音声情報 ②緊急地震速報の震度5弱）向けに別の入力用メールアドレス(訓練用)を設けること。当該アドレスに入力された際は訓練と判定できるパラメータで@InfoCana(テキスト系)・@InfoCanal(音声合成系テキスト)・すぐメールPlus+（登録制メール）に出力できること。

### (3) 消防指令台入力連携機能

- ① 山梨県鳴沢村が所属する広域消防指令台向けに入力 連携用メールアドレスを発行できる。消防指令台から火災情報を入力した際は、予め定めた出力先に配信することができる。また、その配信の際は@InfoCana(テキスト系)・@InfoCanal(音声合成系テキスト)・すぐメールPlus+（登録制メール）・すぐメールPlus+(架電にともなう音声合成系テキ

スト)それぞれに件名・本文を設定することができる。火災情報は主に出火・鎮火・誤報・出動に関する内容を想定している。

#### (4) @InfoCanal 入力連携機能

- ① @InfoCanalからの情報を入力できるAPIを備えていること。
- ② @InfoCanalからの入力向けに配信パターンを複数用意すること。当該配信パターンは、カテゴリ・タグ・配信先メディア（①登録制メール ②エリアメール・緊急速報メール ③架電）を組み合わせで登録できる。APIを介し、@InfoCanalから特定の配信パターンを指定された場合、その配信パターンにセットされたカテゴリ・タグ・配信先メディア（①登録制メール、②エリアメール・緊急速報メール）に件名・本文が配信される。

#### (5) @InfoCanal 出力連携機能

- ① APIを介し、@InfoCanalに配信連携できること。
- ② 気象情報入力・J-ALERT受信機入力・消防指令台入力の際は予め定めた@InfoCanalグループ（行政区分ID・地域区分ID・情報区分ID・属性区分ID）・緊急度（通常・緊急）・鳴動音・繰り返し回数・連携先種別・件名・本文を指定して配信できること。また、その配信の際は@InfoCana（テキスト系）・@InfoCanal（音声合成系テキスト）・すぐメールPlus+（登録制メール）それぞれに件名・本文を設定することができること。

#### (6) エリアメール(docomo)・緊急速報メール(au、Softbank、楽天モバイル)出力連携機能

- ① APIを介してエリアメール(docomo)・緊急速報メール(au、Softbank、楽天モバイル)に配信できること。

#### (7) 住民世帯に対する電話発信（架電）機能

- ① 住民世帯の電話番号を登録できること。
- ② 登録済み住民世帯の電話番号に対し電話発信できること。
- ③ 本文に入力したテキストを音声合成で読み上げることで、相手に情報を伝えることができること。

## 5. IP 通信網を用いた情報伝達・収集システム

【NTT アドバンステクノロジー(株)製「@InfoCanal」(アットインフォカナル)】

### 5.1. 管理・配信システム

#### 5.1.1. 環境要件・機器要件

- (1) 庁舎被災時に備え、庁舎設置以外のインターネット網に接続された任意のPC(Windows OS 10、11の全バージョン)及びスマートフォン等の端末からでも配信操作が可能な状態であること。
- (2) 庁舎内からネットワーク回線を通じて、本システムにアクセス可能であること。
- (3) 当システムへは、固有のアプリ及びプラグイン等に依存せず、標準的なウェブブラウザを用いてアクセスできること。
- (4) データベースのデータは適宜バックアップを行うこと。また、バックアップデータは複数拠点のデータセンターに保管すること。

- (5) データの保管や持ち出しに対し、情報セキュリティ対策（入退室管理、障害検知、監視カメラ）が講じられていること。
- (6) システムについて、必要なセキュリティ対策（情報漏洩、不正アクセス 等）を講じること。また、端末との通信経路が、SSL/TLS 等により暗号化されていること。

## 5.1.2. 機能要件

### (1) ユーザー管理機能

- ① 当設備の利用者の種別として、「システム管理者」および「情報配信者」を指定できること。「システム管理者」とは、主に当システムの動作設定および運用管理を行う者を想定している。「情報配信者」とは、各受信端末に対して情報の配信操作を行う者を想定している。なお、「システム管理者」は「情報配信者」が行うことができる全ての操作を行うことができること。
- ② システム管理者および情報配信者を複数名登録することができ、それぞれに固有のユーザーID とパスワードを設定できること。
- ③ 情報配信者に対して、それぞれに固有の配信権限（配信可能なグループを限定する等）を設定できること。
- ④ 情報配信者に対して、「ログイン画面」を提供すること。システム管理者および情報配信者が、当該画面に登録済みであるユーザーID とパスワードの組み合わせを入力することにより、管理・配信サイトにログインできること。
- ⑤ システム管理者に対して、ウェブブラウザで閲覧可能な「ユーザー情報管理画面」を提供すること。システム管理者は、当該画面を用いてユーザーの登録・削除・編集することができること。

### (2) 配信グループ管理機能

- ① 配信グループに、任意の受信端末を所属させることができること。
- ② 電子ファイル（CSV ファイル等）により、配信グループと受信端末の設定情報をインポート・エクスポートできること。
- ③ 配信用に地域区分を複数設定でき、当該地域区分が住民側の受信アプリから選択（購読）できること。当該地域区分の数・名称については、協議した上で決定すること。

### (3) 受信端末管理機能

- ① システム管理者に対して、Web ブラウザで閲覧可能な「受信端末管理画面」を提供すること。  
なお、受信端末は、@InfoCanal 専用屋外受信機・@InfoCanal 専用戸別受信機を対象とすること。
- ② 「受信端末管理画面」を用いて@InfoCanal 専用屋外受信機・@InfoCanal 専用戸別受信機の接続状態（アンサーバック）を任意のタイミングで閲覧できること。
- ③ @InfoCanal 専用屋外受信機・@InfoCanal 専用戸別受信機のファームウェアを遠隔アップデートできること。
- ④ 電子ファイル（CSV ファイル）により、全受信端末の情報をインポート・エクスポートできること。

#### (4) 配信情報の手動入力機能

- ① 情報配信者に対して、Web ブラウザで閲覧可能な「配信情報入力画面」を提供すること。情報配信者は、当該画面を用いて配信情報を文字入力することができること。
- ② 予め登録済みである配信テンプレートを用いて、配信情報を文字入力することができること。
- ③ 配信情報入力操作において、配信対象を「配信グループ単位」もしくは「受信端末単位」で指定できること。受信端末単位で配信対象を指定する際は、端末種別に関わらず任意の端末を複数指定できること。
- ④ 情報配信者毎に指定されている特定の「テスト配信用端末」を、配信対象に指定できること。
- ⑤ 「配信情報入力画面」では音声合成メディア・文字メディア向けに2種の行政情報（文字情報）入力欄を設け、それぞれ文字入力した後1括の配信操作ができること。
- ⑥ 「配信情報入力画面」の音声合成メディア本文入力欄で{ , }内に単語・全角スペース・半角カタカナ・韻律記号(' /|>)を組合せて配信することで、専用户別受信機で読み上げる音声合成の調整ができること。

#### (5) 配信情報の API による入力機能

- ① 外部システムに対して、配信情報を入力可能な API を提供すること。当システムにおいては、主にすぐメール Plus+がこれを利用する想定である。
- ② 配信対象を配信グループ単位（行政・地域・情報・属性区分 ID）で指定できること
- ③ 本文繰り返し回数を指定できること。
- ④ 件名・本文を指定できること
- ⑤ 緊急度を「通常」、「緊急」で指定できること。
- ⑥ 緊急度を「通常」とした際に、鳴動音で通常音を指定できること。
- ⑦ 緊急度を「緊急」とした際に、鳴動音を緊急音、サイレン音、国民保護、緊急地震速報、大津波警報、津波警報、津波注意報から指定できること。
- ⑧ 前半鳴動音回数、鳴動間隔、本文繰り返し回数、本文繰り返し間隔、後半鳴動音回数、繰り返し回数、行政区分 ID、情報区分 ID、属性区分 ID、行政区分 ID、連携先種別を指定できること。

#### (6) 配信情報集計機能

- ① 情報配信者に対して、ウェブブラウザで閲覧可能な「配信情報集計画面」を提供すること。「配信情報入力画面」から配信操作を実行した際に、配信結果を画面で確認できること。また、過去に配信した情報に対する配信履歴を閲覧できること。
- ② 配信情報集計画面には、「地図」および「グラフ」を用いて配信結果を表示すること。
- ③ 各受信端末が情報を受信した位置、もしくは情報を既読した位置などの情報に基づき、「地図」上に端末の位置を表示できること。一定の範囲に多数の端末が存在する場合は、端末群があることが分かるアイコンを表示し、そこに含まれる端末の台数を数値で表示できること。
- ④ 「グラフ」には、受信ステータス（未達・到達・既読等）毎に、受信端末数が表示できること。
- ⑤ 情報配信者が地図上のマーカーやグラフ内の各要素を選択することにより、それらに

含まれる受信端末の詳細情報を表示すること。

- ⑥ 「アンケート形式」の情報を配信した際には、設問毎の回答集計を表示することができること。設問への回答内容が変更された際には、最新の回答内容のみ回答集計に反映すること。
- ⑦ 回答集計データを電子ファイル（CSV ファイル等）に出力できること。
- ⑧ 「地図」「グラフ」「回答集計」から所定の条件に合致する受信端末群を選択することができ、選択した受信端末を対象に情報を配信できること。

#### (7) 外部メディア連携機能

- ① API を介し、すぐメール Plus+（すぐメール Plus+からの出力先も含む）に件名・本文を配信連携できること。
- ② API を介し、当村の公式 LINE に本文・画像を一斉配信連携できること。
- ③ API を介し、Yahoo!防災速報にテキストを配信連携できること。

#### (8) バックナンバーサイト

- ① @InfoCanal で配信した件名・本文・画像をバックナンバーサイトに表示できること。当村 HP 上にバックナンバーサイトに飛べるリンクを用意することを想定している。
- ② バックナンバーサイトに表示された配信履歴を、バックナンバーサイトの管理画面より削除できること。

## 5.2. @InfoCanal 専用户別受信機

【NTT アドバンステクノロジー<sup>株</sup>製「@InfoCanal」(アットインフォカナル)

@InfoCanal 親局から受信した文字情報を音声合成に変換して放送する機能を持つ。

@InfoCanal 専用户別受信機はキitting済み(SIM・@InfoCanal グループとの紐づけ設定)のものを用意し、村内の指定場所に一括配送すること。個別の配布は行わず、発注者の方で数回の集合配布会を開催するので受託者は当該集合配布会を手伝うこと。

### 5.2.1. 環境要件・機器要件

- (1) 戸別受信機のファームウェアは@InfoCanal から遠隔でアップデートができること。
- (2) 通信回線として、3G および LTE を用いて、@InfoCanal の管理・配信システムとの通信を行うこと。
- (3) 設置場所において搭載 SIM に対応する電波が圏内で安定しており通信できる環境があること。
- (4) コンセントの挿し込み口があり、安定した電源の供給が可能なこと。
- (5) 筐体については、容易に操作ができる「専用筐体型」とする。パソコン、スマートフォン、タブレット、フィーチャーフォン等の汎用品は戸別受信機とはみなさない。

### 5.2.2. 機能要件

- (1) 商用電源および乾電池による駆動が可能であること。
- (2) 筐体に直接乾電池を装着するソケットを具備していること。
- (3) 通常、商用電源により駆動し、給電が途絶えた場合に自動的に乾電池による駆動に切り変わること。また、給電が回復した場合に自動的に商用電源による駆動に切り替わること。

- (4) 高齢者等にも押しやすい大きな物理ボタンを筐体の正面(前面)に具備していること。また、単純な操作により、既読確認や聞き直し等が行えること。
- (5) 懐中電灯の代替となる簡易なライトを具備していること。
- (6) 音声外部出力端子(音声 LR、GND、接点制御)を具備していること。
- (7) 屋内において壁面および卓上への設置ができること。また、携行利用ができること。
- (8) 通信回線として、3G および LTE を用いて、@InfoCanal の管理・配信設備との通信を行うこと。
- (9) 技術基準適合証明書を取得していること。
- (10) 遠隔でファームウェアのアップデートができること。
- (11) 情報受信者(端末の利用者)により音量の設定ができること。ただし、緊急情報を受信した場合は、設定された音量にかかわらず最大音量にて鳴動・読み上げを行うこと。
- (12) 遠隔でグループ設定ができること。
- (13) 電源 OFF 状態を含む通信断の状態時に@InfoCanal から配信された情報は、通信が回復した時点で自動的に受信できること。
- (14) GPS 信号による位置情報の測位ができること。
- (15) docomoSIM・auSIM のどちらか、もしくは docomo・AU のマルチキャリア SIM に対応できる通信モジュールを搭載していること。
- (16) @InfoCanal の管理・配信設備から配信されたテキスト形式の情報を受信した際に、自動的に着信音の鳴動および合成音声による内容の読み上げが開始されること。
- (17) **電池消耗通知をすること。**
- (18) 物理ボタンを押下することにより、鳴動・読み上げの再生を停止できること。
- (19) 本体のみで自立する形状をしていること。
- (20) 受信した情報の緊急度(通常・緊急)により、通知音の鳴らし分けができること。
- (21) 緊急度が「緊急」である情報を受信した際には、ミュート(設定音量がゼロ)の場合も含め強制的に最大音量で鳴動すること。
- (22) 緊急度が「通常」である情報を再生中に、緊急度が「緊急」である情報を受信した場合は、再生中の鳴動・読み上げを停止し、緊急度が「緊急」である情報を鳴動・読み上げさせること。
- (23) 情報受信者(端末の利用者)が確認ボタンを押下することにより、受信済みの情報を再生できること。
- (24) 受信済みの情報を5件以上保持できること。
- (25) @InfoCanal の管理・配信設備との接続が確立している状態において、端末がオンラインである旨を@InfoCanal の管理・配信設備へ通知すること。(アンサーバック機能)
- (26) @InfoCanal の管理・配信設備から配信されたテキスト形式の情報を受信した際に、受信した旨を管理・配信設備に通知すること。同様に、情報受信者(端末の利用者)が、確認ボタンを押下した際にもその旨を通知すること。
- (27) @InfoCanal の管理・配信設備に状態を通知する際には、位置情報測位機能により取得した端末自身の位置情報を、通知内容に付与すること。
- (28) 未確認の情報がある場合には、ランプが点灯すること。
- (29) 乾電池の電圧が一定以下に低下したことを、自動で音声により端末使用者に知らせること。
- (30) 楽曲、緊急音、サイレン音、国民保護、緊急地震速報、大津波警報、津波警報、津波注意報に関する音源を受信機本体で保有できること。@InfoCanal の配信設備から情報を受信した際、指定された音源で鳴動すること。

(31) 楽曲を最大 6 曲・合計 180 秒まで記憶できること。

## 5.3. @InfoCanal 専用屋外受信機

【NTT アドバンステクノロジー<sup>株</sup>製「@InfoCanal」(アットインフォカナル)

@InfoCanal 親局から受信した文字情報を音声合成に変換して放送する機能を持つ。

@InfoCanal 専用屋外受信機はキッティング済み(SIM・@InfoCanal グループとの紐づけ設定)のものを用意し、指定場所や現場事務所等に一括配送すること。

村内の鋼管柱・支柱に固定されている既設屋外受信機設備を取り外し、新たに@InfoCanal 専用屋外受信機(アンテナ含む)を据え付けること。当該受信機で生成した音声合成放送をアンプ介して既存のスピーカーから拡声させること。

### 5.3.1. 環境要件

- (1) 設置場所において搭載 SIM に対応する電波が圏内で安定しており、通信できる環境があること。
- (2) 電源の供給が可能なこと。

### 5.3.2. 機器要件・機能要件

- (1) 停電時 55 分待機・5 分吹鳴で 72 時間以上動作するバッテリーを搭載していること。また当該バッテリーは長寿命(13 年)対応のものであること。
- (2) 商用電源、およびバッテリーによる駆動が可能なこと。
- (3) 通常時は商用電源により駆動し、給電が途絶えた場合に自動的にバッテリーによる駆動に切り変わる。また、給電が回復した場合に自動的に商用電源による駆動に切り変わる。
- (4) 音声外部出力端子(音声、GND、接点制御)を具備すること。
- (5) LTE/3G を用いて、@InfoCanal 親局システムとの通信を行うこと。
- (6) 屋外において壁面および円柱への設置ができること。
- (7) 通信回線として、LTE を用いて、管理・配信設備との通信を行うこと。
- (8) 技術基準適合証明書を取得していること。
- (9) @InfoCanal 親局から遠隔でアップデートができること。
- (10) 情報を受信した際、設定ファイルの音量にて鳴動・読み上げができること。
- (11) @InfoCanal 親局でランドマーク情報として緯度、経度を指定しておくことで、@InfoCanal 親局の地図上に@InfoCanal 専用屋外受信機の位置を表示できること。
- (12) 遠隔でグループ設定ができること。
- (13) @InfoCanal 親局の管理・配信設備から配信されたテキスト形式の情報を受信できること。
- (14) @InfoCanal 親局の管理・配信設備から配信されたテキスト形式の情報を受信した際に自動的に通知音の鳴動および音合成による内容の読み上げが開始されること。
- (15) 受信した情報の緊急度(通常・緊急)により、通知音の鳴らし分けができること。

- (16)@InfoCanal 親局の管理・配信設備との接続が確立している状態において、端末がオンラインである旨を管理・配信設備へ通知できること。(アンサーバック機能)
- (17)@InfoCanal 親局の管理・配信設備から配信されたテキスト形式の情報を受信した際に受信した旨を管理・配信設備に通知できること。
- (18) docomo・au のマルチキャリア SIM を搭載できること。
- (19) 楽曲を最大 6 曲・合計 180 秒まで記憶できること。
- (20) 通常音、緊急音、サイレン音、国民保護、緊急地震速報、大津波警報、津波警報、津波注意報に関する音源を記憶できること。

## 5.4. @InfoCanal スマートフォンアプリ

【NTT アドバンステクノロジー㈱製「@InfoCanal」(アットインフォカナル)

### 5.4.1. 環境要件・機器要件

- (1) 情報受信者(端末利用者)が、Google Play もしくは App Store からアプリを入手でき、自身のスマートフォンにインストールできること。
- (2) アプリを動作させるスマートフォン本体の OS が、Android もしくは iOS (iPhone) であること。なお、OS のバージョンは最新のものを含めて 3 世代を対応可能とする。
- (3) アプリを動作させるスマートフォン本体がインターネット網に接続されていること。

### 5.4.2. 機能要件

- (1) 「動作設定画面」を具備し、情報受信者(端末の利用者)は、当該画面を用いて購読したい情報の登録・解除および情報受信時の動作設定(バイブレーションの有無等)ができること。
- (2) @InfoCanal の管理・配信設備から配信されたテキスト形式およびアンケート形式の情報を受信できること。
- (3) 電源 OFF 状態を含む通信断の状態に配信された情報は、通信が回復した時点で自動的に受信できること。
- (4) 鳴動・情報表示機能(Android 版)
  - (ア) 受信した情報の緊急度(通常・緊急)により、通知音の鳴らし分けができること。
  - (イ) 緊急度が「緊急」である情報を受信した際には、スマートフォン本体の音量がミュート(設定音量がゼロ)の場合も含め強制的にアプリで設定した音量で鳴動できること。また、サイレントモードなど端末固有の機能で鳴動・表示に制限が生じるときは、アプリを改めて起動することで最新の情報を取得すること。
- (5) 鳴動・情報表示機能(iPhone 版)
  - (ア) @InfoCanal の管理・配信設備から配信された情報を端末が受信した際に、情報受信者(端末の利用者)に iPhone の PUSH 通知機能を用いて着信を通知できること。
  - (イ) 受信した情報の緊急度(通常・緊急)により、通知音の鳴らし分けができること。
  - (ウ) サイレントモードなど端末固有の機能で鳴動・表示に制限が生じるときはアプリの起動で表示されること。

以上

